

DOLL FORUM JAPAN



大島和代作
『純和』

DOLL FORUM JAPAN
ドール・フォーラム・ジャパン
MAY 1994 Vol.1

大島和代さん

古き良きバリの面影が残る4区マレ地区。17世紀以来の歴史のしみこんだ石畳の中庭を抜けた突き当たりに、大島和代さんのアトリエがある。

ここにアトリエを構えたのは、昨年の2月からだとか。ドアを開けると、まず目に入るのは、ギャラリを思わせるアクリル・ケースに入った人形たち。中の二体は、同じ顔の日本人少女。お嬢さんをモデルにした作品群だ。床や机に広がる資料の雑誌やスクラップ・ブック。日本から持ってきたという着物のほぎれ。

「今度の人形は、着物を着せようと思って。着物を着た人形は、二体目なんです。今、足袋と下駄をどうしようか、とっているところなの。」

机の上には、お嬢さんをモデルにした人形が足を投げ出して座っている。部屋の中にもう一制作作中の人形がある。

——「体平行して制作を進めることは、多いのですか？」

「いいえ、これが初めてなんですけど、やはり、ひとつに集中した方が、いいですね。こちらの人形は、初めて金髪に挑戦したの。ひ

とつの作品ごとに、いつも何か新しいものに挑戦することになっています。この写真の人形（93年夏のオークション用作品、少女が、後ろ手に手を組み、少し身体を傾けながら立っているもの）は、人形が自分の重さだけで立っているよう、重心を課題にしていたし。」

——芸大時代から、人形制作を始めたのですか？

「いいえ、油絵とか、絵の方が専門でした。」

——では、人形はいつから？

「結婚して、18年前にバリに来まして、それからです。」

——なぜ、人形だったんでしょう。

「家に使わない日本製のメリヤス下着なんかがありましてね、それを何かに使えないか、と。で、その頃、バリに来たばかりで、電車の中なんかでも、凹凸のはっきりしたフランス人の顔が、とてもきれいだな、と思ったんです。鼻の形ひとつとってみても、メリハリがあつて。そんなことがおもしろくて、人形を作り始めたんですね。だから、最初は、本当に遊びみたいなもので。」

——その頃から、子供を題材としたものを？

「いいえ、最初は女の人とか。今とは、まったく違う作風でした。子供の人形を意識するようになったのは、『装苑』に10か月連載をした頃からですね。その後、オークションにも、子供を題材とした作品をだすようになって。」

——お嬢さんを題材にしたものが多いですね。

「そうですね。それ以外のものも、作りますけどね。」

——お嬢さんはなんとおっしゃっていますか？

「何も言わないけど、彼女をモデルにした作品を、彼女が大ファンのデミ・ムーアが買ってくれたので、とても喜んでくれてね。わたしも、はじめて人形作ってよかったと思ったわ。でもね、娘にモデルになってもらって、ポーズしてもらおうでしょう。そうすると、『そんな目で見ると母の目じゃなくて作家の目で見ちゃうから、怖いね。』」

——材料は、何をお使いですか？「綿を詰めるだけで、芯は使いま

せん。人形は重心だけで立つようになっています。外側は絹を使います。髪の毛も絹糸を自分で染めたものを使っています。目は、石をいれて、リキテックスで描いています。前は、西洋のアンティークドールにあるようなガラス玉も使ってみたのですが、わたしの人形にはあわないみたい。

手縫いですが、ミシンも使います。生活の中の繕いものも一緒にやっています。常に、生活の中で人形を作ってきたし、だからこそ、やってこられたのかも知れません。

——洋服や小道具も全部、ご自分でなさるのですか？

「出来合いのものをを使うと、その人形に合わないもので、全部自分で作ります。のみの市で、古い洋服・レースを探して、作品に取り入れることも多いです。昔の本物の手仕事に学ぶものが多いですね。その意味で、バリはいい街。でも一方で、最近、作品が、裸に近くなっているのね。衣装小道具より、人形本体で勝負出来るようになった。」

——一体にどの位時間をおかけになりますか。

表紙の人形 「純和」（じゅんわ）
42cm
素材：本体—綿、絹糸、絹布
服：1960年代のナイロン布
アンティーク・レース
帽子：1930年代の帽子の素材を使って

「だいたい、2〜3か月。年間5〜6体です。実際に手を動かしている時間に加えて、見る時間がとても大切なんです。毎日朝9時から夕方まで、夕方帰るんですが、朝来たときと、夕方帰る前に見るときは表情が違って見えるんですね。一週間くらい時間を置いてみると、また違って見えたりするんです。で、またなおしたり。内側から湧き出るものがあって一気につくると、いうこともあるので、一歩ひいて眺めることが必要で、そのために時間をかけています。見る時間が減ってくると、完成してきたな、ってことになるんです。」

——人形の大きさは？

「40cm前後のものが多いです。1m近いものも作ったんですが、それは、ジュネーブで買手がついて、手もとに写真すら残っていないの。」

——資料はどんな風にお使いになるのですか？

「娘がモデルの時は、写真を見ながら制作しますが、まったくのイメージで制作する時もあります。写真も集めています。何となく、目に止まったものを取って置く場合もあるし、創作のために、資料を探すときもあります。鏡にうつる自分の骨格を参考にする場合

合もあります。今、作りかけなの

が、ここにあるフリーターカーロ（メキシコ人女流画家）の肖像。彼女のことは、作品も全部含めて、女の生きざまとしてひかれますね。作っていて息がつまるような気がするんですよ。」

——展覧会などは？

「人形の数が少ないので、個展はなかなか。ユネスコの婦人週間の日本展が、最初で、その後、フランス・カルフル（旅行代理店、現在VOYAGERS au JAPON）での展覧会。あとは、イタリアの人形美術館、一昨年のバリ装飾美術館にも出品しました。」

——オークションでは、近年最高の値段がつくと聞いていますが。

「ここ三年は年一回のペースで出しています。ジュネーブのギャラリーで個展をした時に高値がついてしまつて。オークションの場合は、値段が幾らになるかわからない、というのは、危険も多いし、その頃は、全く無名でしたし、不安は、ないわけではなかったのですが。確かに誰か買っていくかわからない不安もありますが、好きな人に買ってもらえるのは、嬉しいですね。」

ただ、扱いが心配なので、いつも自分で梱包・搬入しています。——好きな作家・影響を受けた作家

家は？

「こちらで気になる作家はミトラ二かな。彼女の作品には、エスプリと表現力があるから。私とまったく違うタイプで、彼女のエスプリは欧米的です。人形制作は、誰に習ったわけでもないの、特に影響を受けた作家は、いません。ただ、ロダンとマイヨールなら、マイヨールの方が、私は近いと思います。あとは、エジプトの彫刻なんか見て、自分が近いものを感じたりします。でも人形美術館とか、他の人形作家の展覧会は、あまり行く方ではありませんね。」

——日本で個展の計画は？

「もう、日本の今の状況は、わたしにはわからないですね。もし、わたしの人形を買ってくれた人が、コレクションを公開という形でやってくれたら、素敵だけど。」

——では、これからずっとパリで？

「パリは、情報に追われず、好きなペースで仕事が出来ますし。日本にいたら、つぶされていたかもしれない。今のようない仕事も出来ないし、人形も作っていないから、もしもね。このパリの自由さは、大好き。」

——インスピレーションは、どこ

で得ていますか？

「道を歩いていて、本を読んでいて、何かを感じたり、今の作品を作っているうちに、次はこうしたい、という次の作品のアイデアが、生まれることもあります。でも感じたことを、じっと温める時間が必要だから、決して、今日感じた何かが、すぐ作品になるわけではないですね。いい材料が揃うまで待つこともあるし。逆に、材料を見て、作品のアイデアを得ることもあります。」

——油絵に戻る、オブジェ的な作品を作る可能性は？

「人形以外にもやりたいことはありますよ。実際問題として、人形を年5〜6体作るのが精一杯なので、他のことをやる時間があまりないのだけれど。でも作風は、これから変化していくと思います。」

——人形に話しかけることは、ありますか？

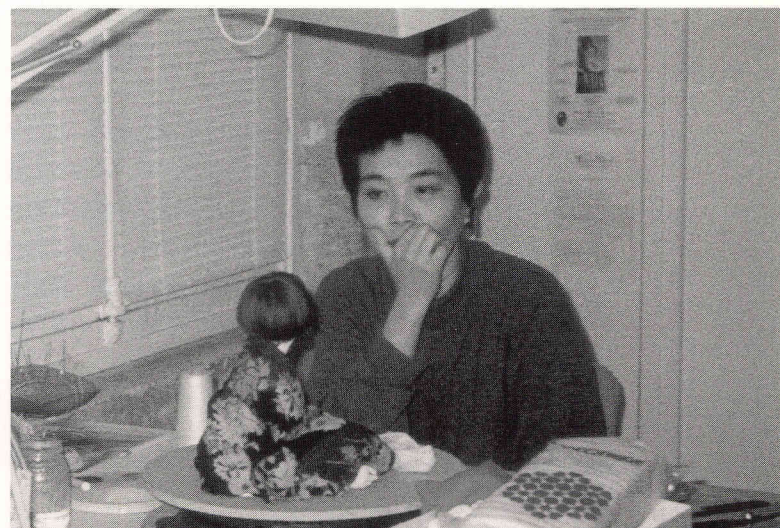
「それはないけれど、子供の人形を作っていると、自分が人形の恩恵を受けているような気がするものがあるんですよ。不思議ですね。」

一九九四年三月十三日

アトリエにて

インタビュ 永田千奈

(ユーラシア・ドールズスタッフ)



【大島和代経歴】

- 1946 文案人形発祥の地、兵庫県淡路島に生まれる
- 1970 東京芸術大学絵画科油画卒業
- 1973 東京芸術大学大学院壁画科卒業
- 1976 渡仏、人形制作をはじめ
- 1984 バリ、ユネスコ本部にて「国際婦人デー」を記念した展覧会に招待出品
- 1984 バリ、カルフル・ジャポンにて初の個展「人間になれなかった人形達」展
- 1986-87 バリ郊外のロワベ・フルド人形美術館「国際現代人形作家展」に招待出品
- 1987 テレビ朝日「ケントのどういknow?」に出演。「和代のくるみ人形」紹介
- 1987-88 「so-en」87年6月号-88年3月号
「大島和代の人間になれなかった人形達」を連載
- 1991 バリ・ルーブルのアル・デコ美術館における
「インターナショナル昨日の人形・今日の人形展」に招待出品

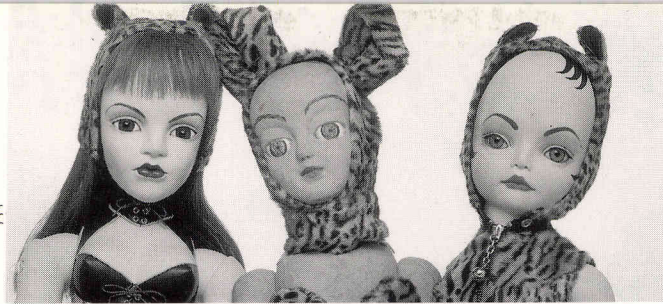
その他、海外雑誌・マスコミ登場多数

コレクションは、Stein am Rhein人形美術館（スイス）やデミ・ムーアが所蔵



松本 昌子

魚津市生まれ。東京の大学、デザイン学校で学ぶ。10年前にケニアでミュージシャンのB. B. モフラン氏と結婚し、人形制作を始める。
個展多数。4月に銀座での個展を終えたばかりの松本さんは、5月21日より茅ヶ崎市のギャラリー「俊」の今様人形展に参加、同時期にはスイスで個展が行われる。素材：布、紙粘土、アルミワイヤー、スチロール
〒937 富山県魚津市新宿11-22



トリコロール
作品左から村山美穂、小沢幹子、小笠原理佐

トリコロール

(小沢幹子・小笠原理佐・村山美穂)

4月18日〜24日

ギャラリーモテキ(銀座)

ショールーム風の3体の人形が並ぶポップなDMにひかれて、トリコロール人形展を訪れた。

四谷シモン氏主宰のエコールド・シモンの門下生3人によるこのグループ展は、共に良い意味で影響されたと思われる師のテイストを漂わせながら、それぞれが独立した別々の個性を奏しませられた。

小笠原さんは、桐の粉に胡粉という伝統的な素材を使いながら、キュービーと子悪魔の両方の魅力を持ち合わせたキュートな作品。

村山さんの作品は、西欧中世の色濃く、レブリカとはまったく異なった視点で、木彫りの間接人形に直接繊細な彩色を施し、古い人形を現代感覚でそのまま再現しようとした試みがおもしろい。

小沢さんは、故意に荒く仕上げた表面に直接彩色したブリミティブな印象の作品。

DM用に3人が共通のテーマで制作した人形が楽しかった。次回の予定はないというが、このような魅力的な作品展は、継続して発展していったほしいものだ。

刺繍を越えた刺繍展

3月30日〜4月11日
渋谷東急本店特設会場

アメリカとカナダのアートとしての刺繍を集めた巡回展が、開始から3年のときを経て経て日本にやって来た。

ニューヨーク滞在時の山口景子さんの人形2点もその中に入っているというので、見に行ってきた。日本にも黄金の針展というものがあるが、またそれは発想のダイナミズムの違いを感じる。

刺繍といながら、油絵作品と合体させたもの、現物の鉄や化粧道具を縫いつけてしまっているもの、そして色の鮮やかさなどを見ると、クリエイターでない者でも何か手を動かしたくなるような衝動に駆られる。

そのような作品の迫力の中で、山口さんの人形2体は、まったくひけをとらない。かえって、立体としては唯一の作品だったため、存在感があり、頼もしく見えた。だが、参観している人のほとんどは、カタカナのキャプションを見て、山口さんを外国人と思っていたようだ。

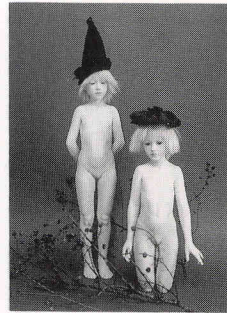


丸 羊太郎人形個展1

3月22日〜30日
せ・らるる(新宿)

4年間の人形制作歴を辿る丸さんの初の個展。石膏などでできたポーズ人形や間接人形など。

現代人形に物憂い表情の人形は多いが、丸さんの物憂さには、彼女なりの上品な愛らしさを感じる。伝説の中のストーリー性をテーマに制作を続けているというが、今回は、より現実生活に接近したコンセプトの人形も、見てみたい気がする。



信田耕 ヒロコ

1 藤製世紀末顔商売

3月23日〜4月4日

松屋銀座遊びのギャラリー

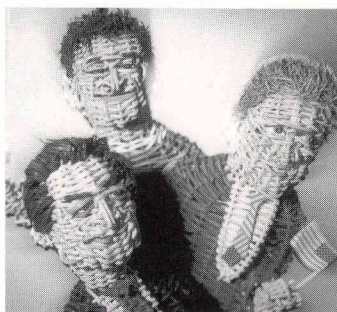
藤という素材が、こんなにも楽しく、顔に化けるものとは思わなかった。画家の描くラフなデッサンの、線の一本一本が、非常に的確に人間の表情をとらえていて感心することがあるが、信耕さんにとっては、藤の一本が鉛筆の一筋にあたる。

にあたる。

細川首相、クリントン大統領、ビートルたけし他、マスコミをにぎわすさまざまな顔が、ユーモラスに並んでいる。どれが誰だかは解読はしない。

かごを編む要領で、頭のてっぺんから一気に顔を「編んで」いくというから(もちろん、芯などない)即興演奏を聴いているときのような、弾みが作品から伝わってくる。

信耕さんの作品は、人形と呼ぶ範疇のものではないかもしれないが、このような奔放な発想の作品を作る作家が人形作家にもっと登場してほしいものだ。



撮影・ホアシ・テルタカ

十八世貝羊太郎人形展

4月2日〜10日
せ・らるる(新宿)

香港に魅せられ、映画スターや人々の日常の風景をドールハウス

と人形で表現する、という独特のテーマで制作をする大貫さんにとって、今回が初めての個展。

ドールハウスに置く小さな茶器などもすべて本人の手作り。肉まんに目鼻のついた男の子、飲茶のセイロに入った焼売の子供など、コミカルで可愛い。

縫いぐるみの人形のボリュームも印象的だった。

人形制作は、島村龍児兄妹に師事したというが、大貫さんは、初めての個展ですでに独自の境地をもたれており、次は何を見せてくれるのか楽しみだ。



人形展の感想文募集

原稿用紙1〜2枚程度。この欄で採用された方には、リーセ・コレクションの葉書セットをお送りします。宛先など詳細は、最終ページをご覧ください。

*投稿された原稿は、返却いたしません。また、原稿を一部省略することもありますのでご了承下さい。

連載コラム

人形つれづれ

①日本に於ける創作人形の現況



福島光太郎

写真は、山本福松の市松人形。自分の娘をモデルにしたといわれる。青山静男撮影

先日芝の増上寺で行われた古
人形の展示会を見に行きまし
た。これは京都の昔人形青山さ
んが毎年行っているもので、去
年は重要文化財だった平田郷陽
さんの妖艶な生き人形がメイン
として取り上げられていました
が、今年は大正期の山本福松さ
んの可憐な市松人形がその役を
果たしていました。

福松さんの人形は過去に一度
間近に見る機会に恵まれたので
すが、今回もその時と同じく、
形はおおらかで柔らかく、胡粉
ものびやかで決して無理をして
いないように見えながらも、何
処にも破綻のない緊張感のある
仕上がりになっているのが印象
的でした。

この山本福松という人物につ
いては作品と、明治から大正期
に活躍した人形作家であるとい
うこと以外に詳細を知らなかつ
たので、手持ちの資料の中で急
いで捜してみたのですが、何の
本にも名前すら出てきません。
辛うじて昭和11年刊「玩具叢書
人形作者篇（久保田米所著）」の
中に「序次に云ふが、明治年代
になり、浅草花屋敷に於いても

活人形を、しばしば飾ってゐ
る。其人形の作者は山本福松で
ある。浅草千束町米久の裏家に
住まっていた。」とだけありま
したが、これはおそらく初代に
ついての記述であろうかと思ひ
ます。これだけ人々に感動を与
えるものを作ったのに略歴さえ
伝えられていないのは何か腑に
落ちない気がしますが、その頃

は云わずと知れた存在だったの
でしょうか。しかし当時の人形
職人の匿名性を考えるとこの扱
いは当然だったのかもしれない
ん。そういえば以前見かけた福
松さんの人形は御腹に巻かれた
和紙にただ「山本」とゴム印の
ようなもので記してあるだけで
した。

日本の創作人形を語る時にい
つも引き合いに出されるのは、
大正末から戦時色の強くなる昭
和15年頃までの時期に集中す
るように思われます。それは専
業の作家にくわえ、文化人、ま
た文化に敏感な一部アマチュア
が作家外の業界人や研究者によ
ってその枠を越え一体となり、
マスメディアもそれに拍車をか
けて、人形芸術という名のもの

にひとつの社会風潮にまで発展
したからでしょう。何か前途に
明るく開けたものが待っている
かのような、期待と希望を感じ
られる時期でもありました。

このように脚光を浴びた一時
期は、しかし、それ以前の時代
と何の脈絡もなく突然やつてき
た訳ではありません。例えば前
述の福松さん達が明治期に作っ
ていた見世物人形やその後興業
の衰退とともにマネキンに活か
された生き人形の技術は、三代
目安本亀八から初代平田郷陽を
通して、昭和3年に白沢会を結
成して以来56年に亡くなるま
ですと日本の人形界をリード
してきた二代目郷陽にまで連続
と受け継がれてきていますし、

その意向はまた辻村ジュサブ
ローをはじめとする現在の創作
作家にも少なからぬ影響を与え
ているようです。ハンスリベル
メールが古いボールジョイント
の人形に発想を得たように、他
の作家達にもきつと何かしら形
にまとめあげる発想のベースが
あったのだと思います。

ことによって確立したものにな
りました。昭和初期の日展進出
や人形交流などの大きな流れを
通して、それまでリベラルだっ
た人形芸術模索の流れは保守的
になり、またそれ以後の現在活
躍している作家達によって昭和
40年代後半からのより身近な
第2次人形ブームともいえる動
きが出てきました。そしてこの

二つの時期を経て、未だ社会的
な認知は高くありませんが、日
本にも創作人形という分野がで
き個人作家が増えつつありま
す。

この事自体は人形に関わるもの
にとつて大変喜ばしいことなの
ですが、一つ気になることがあ
ります。それはアーティスト
ドールが増えることによつて再
びアートと工芸と玩具という枠
付けが人形のうちに持ち込まれ
ているように思うことです。そ
してその垣根が高くなるとつま
らない排他的な雰囲気になりか
ねません。

「人形」という言葉が持つ輪
郭が曖昧であるように、その内
容もいろいろならえ方ができ
ます。ですから個々の作品につ

いて性質の良否は決められませ
んが、昭和期の人形興隆がそれ
ぞれの専門を解放し、ともに刺
激し合うことに端を発したこと
をもう一度思い起こしてみよう
とが今必要なのではないでしょ
うか。これだけ様々なメディア
が発達している今日、我々は
きつと何処かで相通づる雛形を
持っていると思います。

肖像人形的な色合いの強い福
松さんの市松は鑑賞に値すると
同時に愛玩的でありまたエロ
ティックでもあります。あまり
に多くの要素が混ざり合ってい
てたしかにファインアートとは
呼べないのですが、あどけ
ない表情の中に何故か素直な人
形のありようを感じさせてくれ
ました。

【福島光太郎】
早稲田大学文学部卒業。
創作人形学院・ピグマリオン
講師。

山本福松の市松人形は、横浜人形
の家の3階に展示されています。
また、福松に関する資料も遺族の
方から同館に寄贈されていますが
一般展示はされていません。

人形にかかわる人の思いはさまざま。

このコラムでは、いろいろな形で

人形に携わる方々を紹介します。

今回は、人形博物館としては、日本で

最大の規模の「横浜人形の家」で

学芸員をされている若林啓子さんです。

(インタビュー・小川千恵子)

「人」と「形」 のあいだで



横浜人形の家学芸員

若林 啓子さん

小川…私、人形のことを知りた
い、と走り回るようになった
ら「若林さん」のお名前をよ
く聞くんです。「彼女は良く
勉強してるから」とか「彼女
に聞けば・・・」という感じ
で。

若林…ああ、私、たとえば吉徳
の小林さん(*)にはお人形
のことを教えて頂いたし、各
種の人形とかかわりがある方
がおいでのなるので・・・。

小川…お人形を扱うようになっ
たきっかけは？

若林…私、本当は人形とは全
然関係なかったんですよ。

専攻も考古学ですし。八王
子に発掘調査なんかに行っ
たりしてたんですよ。他の
学芸員も、専攻が哲学だっ
たりして。まあ、「人形
学」というものがないしそ
れ自体、まだ市民権を得て
いませんしね。

小川…作家の方に聞いても成
り行きなどで、結果的に人
形の道に入ったという方が
多いですね。こちらへは、
いつ頃から？

若林…ここに移る前の人形の

家の時代からですから、も
う、10年勤めています。

小川…では、今では、若林さ
んにとって、お人形はどん
なものでしょうか？

若林…学芸員という仕事柄か、
人形は、資料とらえて入
れ込みは薄かったと思うけ
ど、今は、奥の深さや面白
みを感じています。愛情を持
って、という言い方はちよっ
と気恥ずかしいけど、これ
らの人形を自分で守らな
きゃ、って使命感を感じて
います。

小川…ところで、現代アーチ
ストの作品に注目している
私としては、日本最大の人
形美術館である横浜人形の
家で、ぜひ、資料として収
集の対象にして頂きたい気
がするのですが。

若林…それが難しいんですよ
ね。評価を定めにいくところ
で、どなたかの作品の特
別に選ぶということが。

また、現代人形には、人形
の持つ陰と陽の両面性のう
ち、陰が強調されるものが
ありますがそうすると、設

立のコンセプトにあわなく
なりますし。

小川…国際交流を目的とした
観光施設的なということに
なす。

若林…ええ。ですから、現代
人形をおけないといっても
国際交流の形で、海外でい
ただいたアーティストの人
形はいくつかあるんです
よ。でも、積極的な収集は
今のところはまだおこなっ
ていません。

小川…確かに、人形の家の設
立の元となったのは、民族
人形のコレクションだった
わけですから。

若林…大野コレクションは、
どれにも片寄らない、本当
にフランスのとれたコレク
ションなんです。

小川…一年に一度行われると
いうアマチュア人形展はい
かがですか？

若林…これは、手作り人形展
という形でスタートして今
年で7年目なんです。楽
しいですよ。無選別で参加
できますから、家族揃って
毎年出して下さる方もいる

んです。中には、どの先生
についてるなんて、一目瞭
然の方もいますが。素材も
題材も、それこそ千差万別
で面白いんですよ。毎年秋
に行われますが、8月に応
募要項ができます。

小川…結構、「暗い」人形も
出るようですね。

若林…ええ。そういう意味で
は、人形の家の企画で日本
の現代人形を受け入れる唯
一の機会といえます。

小川…アーティスト・ドール
を作る方に、メッセージは
ありますか。

若林…とにかく、私自身、た
くさん見たいと思っていま
す。今、試みとして、堀柳
女さんや平田郷陽さんのス
クリーンを展示していま
す。増床の計画もありそう
なので、日本の現代人形を
ひとつの目標として意識し
ていきたいと思っています。

*小林すみ江さん・・・吉徳人形資料室長。図説・日本の人形史（東京堂出版）の解説を担当。

*大野コレクション・・・横浜の大野真珠店の創始者、大野英子さんのコレクション。海の見える

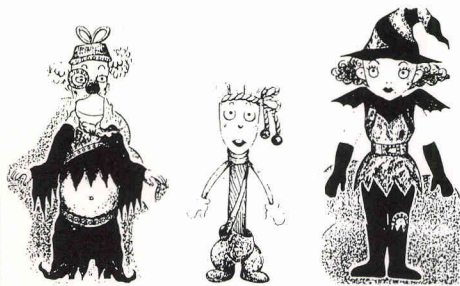
場所に人形館を建設するのは、彼女が存命中よりの夢であり、没後、彼女の意志により、
1981年（76歳）の1981年に横浜市に寄贈され、現在の人形の家（横浜人形の家）の基礎となった。
その後、人形の家は、昭和58年に太田ますいさんによる日本人形・雑道具など630点の寄贈を
受け、和洋ともに充実したコレクションを所蔵することになる。

INFORMATION

【藤井路以さん、「マホマホ」人形担当】

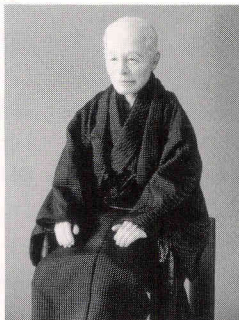
人形作家で画家でもある藤井路以さんが4月からのNHK教育テレビの新番組「マホマホだいぼうけん」で、キャラクターとセットのデザインを担当した。藤井さんは以前にも「ピコピコボン」他、多数のTV人形劇のデザインを担当してきたが、今回の「マホマホ」でも、藤井さんのファンタジックでユーモアのある世界が楽しめる。

舞台は、アニメ声優の田中真弓さん扮する魔女ウィッチーの研究室と、命を吹き込まれた小さなパペットシアター。今までの仕事で一番難しく大変だったというのが、随所に藤井さんの趣向が見られ、楽しい。



【高橋富子さんの写真集】

銀座松屋のギャラリーでの個展のために作られた高橋富子さんの写真集が、入手可能。B5判56頁全カラー ¥3000(送料含) 入手したい方は高橋さんまで申込を〒279 浦安市美浜 5-8-704



【引間里佳さん、WCDCDで受賞】

去る3月26日より3日間、フランスの人形鑑定家フランソワ・テメール氏の呼びかけによって行われた「第4回人形収集家と作家のための世界大会」のコンペティションで、日本の人形作家の引間里佳さんが、オリジナル・アーティスト部門のカテゴリー1（ボーセリン部門）で、第1位に選ばれた。選考を担当したGDS（世界の人形作家のネットワーク）の受賞者からは、世界的な作家が輩出しており、引間さんの今後の活躍が期待される。



【赤川政由氏、高校教科書に登場】

銅版造形作家の赤川政由氏の作品「青いマラドーナ」が、日本文教出版の「高校美術1」に採用された。日本の住環境に少しでも夢を感じさせたい、という氏のメルヘンあふれる作品は、川口市グリーンモール奥多摩駅前など全国各地の街角や公園で見ることができる。氏の作品を見てみたい方は、引っ越ししたばかりの赤川BONZE工房に問い合わせを。（下記参照）

【胡粉のバイブル、推薦図書に】

木彫人形作家の瀬戸栄子さんが、後進の人形作家のために、一般ではなかなか分かりにくかった胡粉の扱い方を「これ以上説明のしようがない」ほど気を配って書いた「木彫の工芸人形」（日貿出版）が全国学校図書館協議会の選定書に選ばれた。

胡粉に本格的に取り組みたい方は、ぜひ一読を。ユーラシアドールズで入手可能。

【ロアン・コレクション人形博物館】

北仏・ブルターニュにある古城・ジョスラン城のアントワネット・ド・ロアン侯爵夫人は、城の屋根裏部屋で夫の祖母の古い人形を発見、修復・調査をして1984年に城の元厩舎に人形博物館を設立した。

毎年1回企画展を行うが、今年は「日本の人形」。古い和人形を中心に、人形の種類、素材や文化をていねいに調べて展示。また、ロアン夫人は現代の人形にも興味があり、所由紀子さんの人形も展示される。6/5から9/30まで MUSEE DE POUPÉES 3, rue des Trente-56120 Josselin, France

【妖精の森『与勇輝』展、開始】

国内はもとより、欧米でも評価の高い与勇輝氏の展覧会「妖精の森『与勇輝』展」が、4月27日、東京銀座の松屋を皮切りに、全国9か所で開催される。最終は、9月29日からの札幌丸井今井。（日程は14ページ参照）

今回は、倉本聰氏の創作による、北海道の原生林を舞台に展開する「チュチュ」を主人公としたニングル（森の小さな人間）の物語に基づき、与氏が約150体の人形を制作、展示する。

主催：朝日新聞社。入場料一般¥700

住所変更

→小田ヒロミ

（結婚しました・7月より下記へ）

〒951 新潟県新潟市信濃町25-25

302号 西濱方

→岩切克樹・映幹子（住居のみ移動）

〒187 小平市小川町1-462-3-501

→すずきすずよ

〒190 立川市錦町1-18-20

☎0425-29-4870

→山口景子（帰国しました）

〒633-02 奈良県宇陀郡榛原町子鹿台 1316-11 ☎07458-2-5985

→赤川BONZE工房（工房のみ移動）

〒198 青梅市長淵 7-95 ☎0428-25-2467

*S26 年建築の木造・土壁の工場です。

【フランスのミニチュア祭が日本を招待】

モンテリマル・国際ミニチュア祭 8月11日～8月15日

南フランスのモンテリマル市が、毎年開催するミニチュアのフェスティバル。

毎年招待国を設定しているが、今年は、日本。日本から選りすぐりのミニチュアが会場のアデマール城に展示される。また、人形作家もその国から1名招待されるが今回は、所由紀子さんが招待され、城の小さな一室を与えられ作品を展示する。

100キロほど北はリヨンで、アンティークドールファン必見という「人形の城」博物館、ミニチュアリストのダン・オールマン氏の「ミニチュアの宮殿」や「マリオネット博物館」などがある。

主催・The International Festival of Miniature in MONTEILMAR
Hotel de Ville, 26200 MONTEILMAR, FRANCE

教室案内 ــــــــــــــــー ドール・アーティストから直接授業を受けられます。

教室・学校名	住所/TEL	開講日時・講師陣	授業料
竹取物語人形学校	〒171 東京都豊島区目白 3-17-27 ☎03-3954-3395	月・創作市松人形（宮崎優人） 10:00-13:00 ・月3回 火・創作抱き人形（竹村和子） 10:00-12:30、14:00-16:30 ・月4回 水・着物縫い方（桑原静江） 10:30-13:00、14:00-16:30 ・月2回 木・創作抱き人形（小林三千子） 10:30-13:00、14:00-16:30 ・月4回	入会金 ¥20000 月謝 月¥10750 火¥13000 水¥8500 木¥13000 *入学随時受付
ビグマリオン 人形教室	〒158 東京都世田谷区 奥沢6-28-14 林コ-♯201 ☎03-3704-3730	月・福島光太郎 A講座 10:30-13:00、14:00-16:30 B講座 18:00-20:30 火・渡辺素子 A講座 10:30-13:00、14:00-16:30 木・吉田良一 A講座 10:30-13:00、14:00-16:30 B講座 18:00-20:30 金・吉田良一 A講座 10:30-13:00、14:00-16:30 土・吉田良一 13:00-15:30、16:30-19:00 日・吉田良一（原則として第1・3日曜日） 10:30-16:30	月4回 1・8月は月3回 入会金 ¥20000 設備費・毎月1000 月謝 ¥12000
A R T モマ-ユ 所由紀子人形教室	〒206 東京都多摩市貝取 2-5-3-506 ☎0423-76-1294	所 由紀子（月3回） 第1・2・3金曜日 10:00-12:30	月謝 ¥9000
岩切人形工房	〒186 東京都国立市東 1-3-15国立ダイナプラザ106 ☎0425-71-3221	岩切 克樹 水曜日 18:30 - 21:30 金曜日 13:00 - 16:00 土曜日 13:00 - 16:00、18:30 - 21:30	入会金 ¥15000 月謝 ¥13000
藤井 路以教室	〒173 東京都板橋区 中丸町39-2-104 ☎03-3530-6598	藤井 路以 火曜日 19:30 - 21:30 金曜日 16:00 - 18:00 日曜日（月1回・第4日曜日のみ） 12:00 - 18:00	入会金 ¥20000 月謝 ¥12000 雑費（月） ¥500 *火・日は 入会可能

新 規 開 講

ドール・サロン 麻生

ビスクドール作家として活躍されてきた麻生ややさんが、サロン式の教室を3月にオープンした。教室は、カリキュラム方式ではなく、その人の個性やレベルに合わせた自由制作中心。素材も磁器（ビスク）を中心に幅広く扱う。扱う人形は、和洋現代創作人形、球体関節人形、アンティークのレプリカなどにひな人形などの季節の人形。ローラ・アジュレイの家具と人形に囲まれ、リラックスした雰囲気の中で個人の感性をのばしていく。4月末からは、毎週金曜日にサロンとしてもオープン。お茶を飲みながら、修理や人形や着物・小物などの注文に応じる予定。

講師：麻生やや 入会金 1万円
月1回クラス（2時間）3千円
月2回クラス（4時間）6千円
*曜日・時間については下記まで問い合わせを
*サロンは毎週金曜日10:00-16:00
〒194 町田市玉川学園2-11-7 ☎0427-20-1423
*玉川学園駅より徒歩1分・スーパーワ 裏



②



①

Coming on the Scene

児玉幸治
(東京在住・制作歴3年)

既成の人形には無い、単に可愛いだけではないものを作りたい。
現実からは逃避せず、人間の实生活により近い人形を作りたい。
現実から近未来的な志向。
パターン化された女性ではなく、その人形ごとの個性が表現できれば…。

①TEEN-AGE SHUFFLE (ティーンエイジ・シャッフル)

テーマ：十代が持つ不安定で少し反抗的な姿が感じてもらえればと思います。

②DICAYED-NIGHT (ディケイド・ナイト)

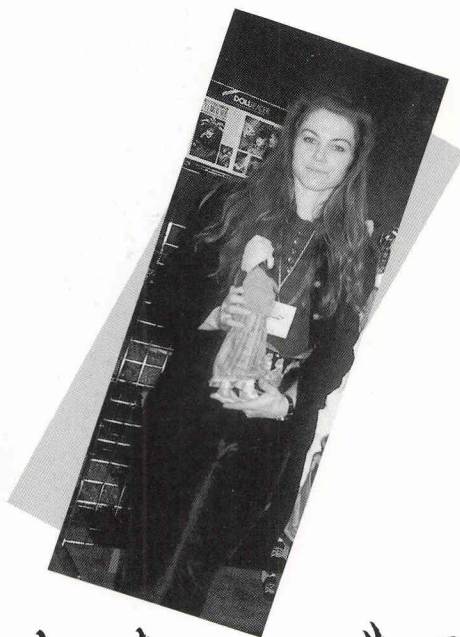
テーマ：朽ちた夜…夜の六本木の印象…そのままです。

素材：木質粘土、硝子義眼、その他 仕上げ：アクリル下地、油彩 関節人形 共に約1m

*児玉さんが人形制作に興味を持つきっかけとなったのは、吉田良一氏の写真集。ビグマリオンで吉田氏と福島光太郎氏に師事。以後、福島教室のOBでつくる「アトリエ・パフォス」のメンバーとして、年1~2回のグループ展に参加。(次回予定は、新宿のせ・ら〜で6月22日より30日。)
「パフォス」とは、ビグマリオンの子供の名前。次世代の作家の活躍のためのたたき台のような場になればという。現在は、プロカメラマン専門の現像所に勤める児玉さんは、自作品を自分で撮影、来年夏に荻窪で人形の写真展を行う予定。
【連絡先 東京都杉並区南荻窪3-26-16 ☎03-3335-7943】

*一貫して都会に棲息する少女の姿をとらえようとする児玉さんのテーマは、ユニークだと思う。ここには紹介されていないが、近作の小麦色の少女のように、活発なイメージの魅力的な少女などにも、積極的に取り組んで欲しい気がする。(小川)

この欄は、制作歴3年以内の方の作品を紹介します。掲載希望の方は、DFJ「CS」係まで検討のために写真をお送り下さい。



ウタ・ブラウザー

12

ニューヨークの展示会で会ったドイツ人のウタは長身の美人で、ハスキーボイス。

初対面から冗談の連発。彼女は、最近のテーマとして黒人文化に取り組んでいるが、その中でもラップミュージックに夢中なようで、その「ノリ」はミュージシャンに共通するものだったと思う。だが、その素顔にはドイツ人の勤勉さを感じる。

「毎日、何時間くらい制作してるの？」

「二十四時間！私は、いつでも人形を作ってるの。忙しくて！」と、笑いとばすが、実は、作品に自分の納得がいかなければ、夜も眠れないという。

彼女は多作だ。彼女のブースは黒人・白人・黄色人、すべての人種の子どもや若者の人形が、それぞれ違う衣装、ポーズで並んでいる。磁器で顔、手、足の見える部分をつくり、あとは縫いぐるみ。アメリカの作家はこのスタイルで作ることが多い。

彼女の家族や親戚には、芸術家が多く、十代の頃から自然に肖像画や彫塑、装飾を志向し、高校卒業後はラテン文化に憧れ南イタリアで暮らしたりした。

そこで芸術的な造詣を深めるかわら、つねに文化を通して、社会

や人々を考察しようという視点があるウタにはあった。

また、当時の社会や地位を反映する中世の衣装にも興味を持ち、良く調べたりしたが、彼女がつくるヨーロッパ中世の人形の衣装に反映されている。

ウタにとって、人形を制作することは、肖像画、彫塑衣装、ファンタジー、装飾、色など自分が興味を持っていたことすべてを融合するものであった。

主に私が見た人形は、黒人のもので、一様にファンキーで彼女の住むニューヨークに息づく子供や若者の活気が伝わってくる。アジア系の人形もあるが、やはり、ニューヨークの子供の雰囲気だ。

現在は、ウタは拠点をニューヨークに据え、精力的に制作をしている。

「どこに行っても、私は『ガイジン』とウタは日本語で話した。彼女は、日本にも何度か来たことがあり、その度に人形を紹介して好評だったという。また、彼女がファンキー・キッズを引き連れて来日する日を望みたいものだ。そして、できるものならウタのグローバルな視点からつくる、東京に住む「黄色人」の人形を見てみたい気がする。

ラップのリズムにのった

ファンキー・ドールズ

UTA BRAUSER

近況報告

このページでは、活躍中の作家の最新作をご紹介します。



小牧 多賀子

「無題」

H 30 cm 石塑

5月21日～6月5日茅ヶ崎市の

ギャラリー俊「今様人形展」に出品

〒184 小金井市本町4-1-1-303



長谷川 裕子

13年前より子供の人形を作る。
35cmから等身大に近いものまで
制作する。

今年は1～3月までのグランパ
(青山)のお人形フェアに参加。
好評を博す。

11月には銀座で個展の予定。
(スケジュール欄参照)

素材：桐粉、フォルモ、胡粉、
球体関節。

〒154 世田谷区駒沢1-15-14

東京とその近郊の現代人形のファンなら、一度は足を運んだことがあるのではないだろうか。西武新宿駅の駅ビル「ベベ」の六階にある、「アートギャラリーせ・ら〜る」は、ある作家が「新人人形作家の登竜門のようだ」と言うほど、人形展の回数が多い。今年度前半の予定表を見ても、18回ある展示のうち、10回は人形展だ。

店長の金田慶南さんは、早くからアートとしての人形に着目、十五年前のこけら落としに企画した友永詔三展をはじめとし、人形作家を積極的に取り上げていった。友永氏に続き、ホリヒロシ、吉田良一、福島光太郎、奈里多究星などの各氏をはじめ、多くの現在活躍中の作家がここから巣立っていったことが、金田さんの自慢でもある。

金田さんはまた、面倒見の良さも評判で、単に場所を提供するだけではなく、その後の作家の活躍のためになる情報の橋渡し役になることも多い。そのためか、ここで教室展やグループ展が開かれることも多い。

せ・ら〜るが人形を意図的に扱ってきたのは、人形には、人が集まるからだという。彫刻にはない柔らかい良いのではないかと、と金田さんは言う。



せ・ら〜るの会場と金田さん

せ・ら〜るでは、人形のほか、ジャンルは問わない。最近ではアニメの原画展などが話題を呼んでいる。最近では、昔懐かしい高橋真琴の原画展が好評だった。

気取らないスタンスで、15年間、新進の作家の現代人形を紹介し続けてきたせ・ら〜るの仕事は、将来、現代の人形を振り返ったとき、必ず話題にのぼることだろう。

アート・ギャラリー
せ・ら〜る

(午前10時半〜午後八時)

新宿区歌舞伎町1-30-1

西武新宿ベベ6F

☎03-3205-12673

SCHEDULE

14

個展・展覧会案内

横浜人形の家 開館10時〜17時 月曜日
〒231 横浜市中区山下町18番地 ☎045-671-9361
(横浜駅東口または桜木町駅から市営バス8、26、58 系統
山下ふ頭下車) 入場料大人300 円 小・中学生150 円

◆五月人形展 4月16日 ~ 5月22日
◆新着人形展 6月3日 ~ 6月26日
◆夏期特別展 7月16日 ~ 8月15日
◆バベツフェア 8月20日 ~ 8月28日
◆伝統人形かしら展 9月23日 ~ 10月10日
◆第7回アマチュア手作り人形展 10月22日 ~ 11月20日

*誰でも参加できる人形展。8月には応募要項が用意される予定です。

せ・ら〜る 10:30〜20:00 年中無休
〒160 新宿区歌舞伎町1-30-1 ☎03-3205-2673
(西武新宿駅ビル ベベ6F)

◆品野粧順 人形展Ⅱ 5月12日 ~ 5月22日
◆西口みちよ 人形展Ⅰ 5月24日 ~ 5月31日
◆ドール・アトリエ「パフォス」人形展 6月22日 ~ 6月30日
◆水無川リナ 創作人形展 7月22日 ~ 7月31日
◆人形グループ 結布の会 第3回展 9月22日 ~ 9月30日

*貸画廊使用料は1日3万円。今後1年間は予約済。

◆さとうそのこ個展 6月13日 ~ 6月19日
ステップスギャラリー
中央区銀座7-8-1 ☎03-3571-0424
11:00-19:00(最終日18:00)
*作者のあたたかな人柄がにじみ出る抽象人形

◆今様人形展「海・風」 5月21日〜6月5日
ギャラリースペース俊(10:00-19:00 月・火)
茅ヶ崎市中海岸1-1-12 ☎0467-88-2544
出品作家:松本昌子、山口景子、所由紀子、黒沢正子
岡田好永、すずきすずよ、高橋操、安達忠良、
赤川政由、さとうそのこ、岩切克樹・映幹子
瀬戸栄子、小牧多賀子、よねやまりゅう

◆妖精の森「与勇輝」展
4/27〜5/9 銀座松屋 8/12〜8/23 新潟大和
5/19〜5/31 博多大丸 9/1〜9/6 横浜高島屋
6/2〜6/14 大阪高島屋 9/14〜9/19 岡山天満屋
6/23〜7/4 京都高島屋 9/29〜10/11札幌
7/28〜8/9 玉川高島屋SC 丸井今井
*銀座松屋の会場の様子を次号でお伝えします。

◆長谷川裕子人形展
GALLERY OGATA
11月21日 ~ 11月27日 (11:00 - 19:00)
中央区銀座6-7-2 滝山町ビル1F ☎03-3572-4727
*カラーページで紹介の作家。「こどものあどけない印象
を大切にしながら、懐かしさと人格が感じられるような人
形を作りたいと思っています」(作者)

会場使用案内

横浜人形の家
*連絡先はスケジュール欄参照

◆多目的室 全日 10,000円(5,000円)
企画展示室 全日 16,000円(8,000円)
人形劇場 全日 23,000円(14,000円)
()内は公益的使用時。その他は有料イベント時。
ただし、予約は1年以上先まで入っているとことです。

昔人形青山ギャラリーK1 13時〜19時
〒603 京都市北区室町通北大路下ル小山東大野町69
☎075-415-1477
(地下鉄北大路駅6出口左2筋目食堂左150m)

◆会場使用料無料、出席自由。
アンティークの和人形で知られる京都の「昔人形青山」
が店の奥に開いたギャラリーK1が、個展の希望者を募集
している。人通りには面していないが、靴を脱いであがる
ギャラリーで、アンティーク家具や暖炉風コーナーを使っ
て展示品を体感するような演出ができる。
遠方の作家には京都での足場と考えてもらえれば、と店
長の青山恵一さんは言う。出品料は無料で、梱包発送すれ
ば、現地で青山さんが作品の管理や、接客をしてくれるし
希望すれば作品の返送もしてくれる。交通費の苦しい遠方
の作家にとっては、至れり尽くせりだ。こんな好条件でも
11月までの予定では、人形展は1回しかないの、今、
人形展の応募は大歓迎だという。
詳細は、上記連絡先まで。

読者の紙面への参加をお待ちします。お手紙をお待ちしています。

【投稿】次号より投稿欄を設けます。本誌への感想、希望、質問、人形に関することなど、何でも結構です。

【CS】制作をはじめて3年以内の方のための誌上での作品発表の場です。まず、検討のために、作品全体の分かる写真をお送り下さい。タイトル、素材、サイズもお忘れなく。

【REVIEW】個展・展覧会の感想をお寄せ下さい。

*以上の採用分には、リーセ葉書セットをお送り致します。

【INFORMATION】ニュースがあったら何でもどうぞ。

【希望】こんな記事があったらいいというものをお知らせ下さい。

【近況報告】プロの作家の方の3か月以内に制作された作品発表の場です。応募はCSに準じます。(採用分には、規定稿料をお支払いします。)

【教室・個展ほかの案内】随時受けつけます。

*応募は、宛名に各項目明記の上、DFJ事務局まで

DFJ購読方法

DFJ (ドール・フォーラム・ジャパン) は年に4回、5・8・11・2月に発行されます。購読は会員制です。

購読希望の方は、年会費5千円を、ご住所・☎を明記の上、下記までご送金下さい。入金確認後、会員登録をいたします。

◎郵便振替 東京00120-8-717693 ユーラシア・ドールズ
(5月より番号が変更になりました)

15 =====次号は、布人形の特集をする予定です=====

ドール・フォーラム・ジャパン第1号

1994年5月18日発行

編集・発行 ドール・フォーラム・ジャパン事務局
〒189 東京都東村山市久米川町3-27-57
☎ 0423-95-7547 FAX 0423-95-7975

編集責任者: 小川千恵子

ドール・フォーラム・ジャパンはユーラシア・ドールズのスポンサーシップにより運営されています。

*本誌掲載の記事・写真の無断転載・複写を禁じます。

編集後記

ドール・フォーラム・ジャパン事務局長 小川千恵子

早速創刊号から我がドール・フォーラム・ジャパン (DFJ) の栄えある読者になられた皆さん、DFJへようこそ!

私は近年、現代作家のつくる人形を扱う仕事を始めようとしたとき、この分野に資料が少なく、情報の拠点がないことにいささか驚きました。これだけ意欲的に人形作家が創作活動が続けているのに、継続的な資料が残っていないことに問題を感じ、力不足を重々承知の上、あえてこのDFJを発行するに至りました。

この創刊号を御覧になって、皆様も思われたかと思いますが、内容的にはまだまだお知らせできることがたくさんあります。そこで、この創刊号を、たたき台として、これからの誌面作りへの読者の皆様の積極的な発言や参加をお待ちしております。

とにかくDFJを末永く継続させ、ドール・アーティストをバックアップするシステムや、ファンとの交流を図るイベントなど将来実現したいと思っております。

アーティスト・ドールとDFJが共にこれから育っていけるよう、どうぞ見守って下さい。

創刊号発行に関し、ご協力、助言いただいた方々に心より感謝申し上げます。

1994年4月26日

ドール・フォーラム・ジャパン 創刊号 CONTENTS

- P 2 巻頭インタビュー・大島和代 … 永田 千奈
- P 4 近況報告 (新作紹介・松本昌子)
- P 5 REVIEW (レビュー・個展・展覧会を見て) … 小川千恵子
- P 6 連載コラム「人形つれづれ」 … 福島光太郎
- P 8 連載インタビュー「人と形のあいだ」若林啓子 … 小川
- P 9 INFORMATION
- P10 学校・教室案内
- P11 Coming on the Scene (新人紹介・児玉幸治)
- P12 From Overseas (海外の作家・ウタ・ブラウザー) … 小川
- P13 近況報告 (小牧多賀子・長谷川裕子)
- P14 個展・展覧会スケジュール、ポイント「新宿せ・らへる」
- P15 編集後記

ユーラシア・ドールズの通信販売

Eurasia Dolls

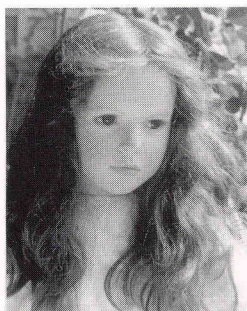
〒189 東京都東村山市久米川町3-27-57
TEL 0423-95-7547 FAX 0423-95-7975

写真集「メゾン・ド・プペ」

フランスでミニチュアと人形のコレクションで名高いマダムリーセが編集。彼女が主宰する「フランス・ミニチュア・クラブ」の作家のミニチュア・ドールハウスの写真集。ミニチュアの人形はフランス人のエスプリがきいていて、本国でも好評。会員価格 ¥4500 (含送料)
(一般価格 ¥5000)

リーセ・コレクション写真葉書

マダムリーセが自分で撮影した現代作家の写真葉書5枚セット。内容は随時変わります。会員¥800
一般¥1000 (含送料)



マスターピース社製「ソフトグラス・アイ」® 近日発売!

人形の目としては、画期的な素材であるシリコンを使った「柔らかい」目です。ソフトなので、穴に対して柔軟性があり従来の装着の難しさがなくなります。また、色もサイズも種類が豊富です。ユーラシア・ドールズは、日本においてマスターピース社の目を独占販売。本格的販売

に先駆けて、会員の皆様カラーチャートと案内書をお送り致します。DFJの会員であれば、マスターピース社の目は会員割引で求められます。近日入荷! ご期待下さい。

カラーチャート2枚と案内書で¥1000・発送料含

お申し込みは、同封の注文用紙をご利用下さい。次号では、品目が増えます。ご期待下さい。また、扱ってほしい品目をお知らせ下さい

熾盛シリーズ 所 由紀子

DFJ 会員は特別価格でお求めになれます。



B



A

熾盛（しじょう）とは、血気盛んな武者の意味。隙を与えぬ張りつめた表情には所由紀子自身の人形作りへの意識がうかがえます。このシリーズに彼女は数年来取り組んでおり、作品には円熟味が増してきています。また、Bは今夏ロアン城の日本の人形展に展示されるものと同じ人形です（フランスのものがオリジナル）。1体1体すべてが手作りのため、制作は限定3体まで（Bはあと2体）と致します。

所由紀子 略歴

長野県に生まれる。桑沢デザイン研究所卒業。
「第1回人形達展」に招待作家として出品。主なる企画展に出展
今夏、フランスでの国際ミニチュア祭、日本人形展に招待作家として出品
創作人形学院本部教授

A、B共に高さ約40cm 素材：石塑、布他

DFJ会員特別価格 A、B共に155,000円

（この価格ではDFJでしかお求めになれません。）

*お申し込み方法は同封の注文用紙を御覧ください。また、お申し込み後、制作に1〜3か月かかることをご了承下さい。

EurasiaDolls

3-27-57 Kumegawa Higashimurayama, Tokyo, 189 JAPAN
TEL; +81 423 95 7547 FAX; +81 423 95 7975

ユーラシア・ドールズ〒189 東京都東村山市久米川町3-27-57 ☎0423-95-7547 FAX 0423-95-7975
ユーラシア・ドールズの人形には、すべて制作NOと作者署名の入った制作証明書がつきます。